

鹿児島大学病院

研修医 大保 崇彦 2014年9月

鹿児島大学病院初期臨床研修医2年前の大保崇彦と申します。

平成26年9月の1ヶ月間、出水総合医療センターを中心として、野田診療所、高尾野診療所、上場診療所、出水保健センター、特別養護老人ホーム鶴寿会たかおのでも地域医療研修をさせていただきました。

私は生まれも育ちも鹿児島なのですが、出水市を訪れたのは今回が初めてで、夜になると道が本当に真っ暗になることに初め戸惑いましたが、おかげで規則正しい生活が送れた気がします。

研修内容ですが、野田診療所では外来診療の合間にエコー検査や内視鏡検査をさせていただいたり、内村先生と訪問診療に行ったりしました。外来診療、訪問診療ともに高齢患者さんが多く、夫婦で定期通院に来られている患者さんも多かったのが印象的で、合併症を多く持つ患者さんを定期的に診察して危険な兆候を拾い上げる診療所の役割の重要性を感じました。高尾野診療所では、午前中は外来診察をさせていただき、ムカデにかまれた症例やスズメバチに刺された症例を初めて経験しました。また、転倒で前頭部に切創を受傷し来院された方の縫合処置を最元寺先生と行ったり、特別養護老人ホームで入所中の方の診察をしたりもしました。出水総合医療センターでは主に総合内科で研修をしました。吉井先生の指導の下、外来患者さんを多く診させていただき、ひとりひとりの患者さんについてどういう鑑別が挙げられるのか、どういう診察をするべきかを丁寧にフィードバックしていただきました。外来診療を経験して、自分の知識がうまく活かしていないことに気づくことができ、時間の限られた外来での診療の難しさを知りました。また、診察以外にも毎日吉井先生からCT画像付きの症例問題があり、自分なりに画像をみる順番を決めて結論を出すことができました。

また、医療安全管理室、地域医療連携室、臨床検査科、リハビリテーション科等でも研修をさせていただき、これまで漠然としたイメージしか持っていなかった他職種の方の仕事内容について実際に見て話を伺うことができ、安心・安全な医療が多職種によって支えられていることを改めて認識するとともに、情報共有の重要性を感じました。

救急外来でもオンコールで研修をさせていただきましたが、とても印象的で驚いたのは、救命救急センターから入院までの流れがスムーズなことでした。これは各診療科の協力と理解がなければ困難なことで、診療科の垣根が高くないというのも地域医療の魅力の一つだと感じました。

1ヶ月間という短い期間でしたが、外来診療などを通して多くの経験ができ、今後の課題を見つけることもできました。多忙な中、時間を惜しまず指導していただいた多くの先生、コメディカル、スタッフの方々にお礼を申し上げます。ありがとうございました。